

〔共済連だより〕

「家畜診療日誌」

岡山県農業共済組合連合会 西部基幹家畜診療所
城本純一

新聞報道等で既にご存知の方も多いであろうが、去る7月11日井原市の市街地において繁殖和牛の逃走劇がありました。井原の山中で放牧飼育していた牛をトラックに積み込んで移動させようとしたところ、暴れて逃走のあげく井原の市街地まで下りてしまったようです。昼前に井原警察署長より「牛が逃げ出してどうにも捕まえられない、なんとか協力していただけないか。」と依頼の電話を受け、さっそく診療車に乗り込んだ。途中から連絡を受けたパトカーに先導されて現地に着くと住宅地の一面に追い込まれた牛と警察官、市役所職員、畜主、JAの畜産担当者等がにらみ合いの状態でした。牛に角は無く、鼻環もついて一見おとなしそうに見えたが、わずかに近づいた瞬間、人垣に向かって突進してきた。危うく身をかかわしたが、国道に飛び出して近くの河川敷に降りて休んだ後、再び捕まえようと近づいた気配を察して市街地に逃走しました。その後、一時行方を見失った為に総出で捜索していたところ、鉢合わせした家畜保健所の職員を突き飛ばした後、民家の駐車場に逃げ込みました。興奮状態を鎮めさせるためしばらく遠巻きに取り囲んだだけで牛には近寄らず、警察官がこの区画へ通じる道路を通行止めにして一般人に被害が出ないようにしていました。牛運搬用のトラックにもう1頭の牛を積んでいたのを横付けし、荷台の後ろドアを下ろして待ち受けていたところ、興奮が収まったのか、観念したのか、牛が自ら乗り込んでやっと捕まえることができました。

結局、関係者1名が負傷し、パトカーが一台損害を受けたが、一般人に被害者が出る事無く解決できたのは不幸中の幸いでした。その後、逃亡牛はもとの牧場に戻り「これにて一件落着」となったわけですが、今後、いつまた同様の事故が発生するかも知れないので対処方法を検討してみました。最初に岡山県畜産課より農家向けに配布した放牧用パンフレットより抜粋して紹介します。

- ・ 放牧前には、必ず鼻輪と頭絡をかけておきます。牛の積込、移動など、逃亡しやすい状況等の場合、牛が少し離れた程度であれば、牛にヒトが近寄ることなく「ちょん掛け」を鼻輪や頭絡に引っ掛けて捕らえることもできます。
- ・ 逃亡して興奮した牛を追うことは、さらに牛を興奮させ逆効果です。決して走らず、大声を出さず、牛に優しく声をかけながら数人で牛の周りをゆっくり囲い、安全な方へ追い詰めて、逃げ道を塞いで捕獲します。
- ・ 十分に注意を払っていても、牛が脱柵して、ヒト等に危害を加える恐れがあると判断したときは、直ちに最寄りの警察に連絡してください。また、万が一ヒト等に危害を及ぼした場合に備えて、保険金が出る民間の損害保険に入っておくと安心です。

上記のような事項が記載されているわけですが、たぶんこれは人間を恐れて逃げる牛

に対しての対応策のように思われます。今回のように人間に向かって来るような牛に対しては、とにかく逃げ場の無い袋小路に追い詰めてトラック等の大型車両で逃げ道を塞ぎ、飲水させて、時間をかけて落ち着かせることです。警察官や役所の職員は動物に関しては素人なので、交通規制したり、付近の住民が近寄らないように協力してもらい、牛に対して直接対処することは控えさせ、畜主と畜産関係者のみの少人数であたったほうが良い。いずれにせよ牛が逃亡したからといって騒がないことが一番重要であったように思われる。